

ずいそう

## ゆっくり・ゆったりリズム

林 勝 義



燃料と食糧の価格が、かつてない勢いで高騰している。

その原因の一端が投機マネー（金融）だとも言われているこの時期に、世界の首脳を迎え北海道洞爺湖サミットが開催されました。まずは開催地の一員として、世界の指導者達を歓迎し、何事もなく無事にお見送りすることが出来まして一安心しているところです。

期間中は必ずしも天候に恵まれませんでした。北海道らしい澄み切ったブルーの空と湖、そして豊富な緑を観て頂けたものと思っております。

またマスコミやメディアを通じ「北海道洞爺湖」の地名が全世界の人々に発信されましたが、北海道をどのように思い、感じ取っていただけたのか？その答えはこれから返ってくるものと期待しているところです。

それにしてもここ数ヶ月にわたっての警備体制は、北海道では経験したことのない嚴重なものでした。

首脳が移動するたびに行われた交通規制の手際の良さとその徹底ぶりは、ただただ“すばらしい”の一言と感嘆するばかりでした。全国から駆けつけて、警備に携わりました警察官の皆さん、本当にお疲れ様でした。

今回のサミットが北海道で行われたこともあり、私自信、環境問題をはじめとする様々な事柄が、身近な問題として捉える機会を与えて頂きました。

その中でも一定の方向が示された「温室効果ガスの削減」については、地球という星に同居しているみんなが、守り行動して行かなければ効果が発揮されない事柄ではないかと、強く感じた次第です。

18世紀の産業革命以降、人類は「便利さ・豊かさ」を追求し、自然環境（エネルギー）を資本として利用しながら、文明を発展させてきました。その結果、現在では高い生産力と文化的な生活を得ることが出来ましたが、その代償として地球の温暖化による自然環境破壊、原油や食糧の高騰といった、人類の生活を脅かす社会環境問題となって自らに降り注いでいたのです。

これらの主原因となっているエネルギーは、食糧や機械等の生産、管理・流通・販売、移動や娯楽さらには物を使ったあとの廃棄物処理等、ありとあらゆる場

所で使用されております。今となつては人類が生活していく上で、自然環境資源はなくてはならない頼みの綱となってしまいました。しかしながら、世界では20億人にも及ぶ人々が、前記のようなエネルギー消費に関係のない生活をしていると聞きますと、便利で豊かな生活を謳歌している我々は、何か身につまされる思いが致しますし、真剣にエネルギー消費（二酸化炭素の排出）の削減に取り組まなければと思いました。

具体的に何をどうすれば？

- ※大量生産・大量消費の生活様式を改める。
- ※石油などの化石燃料から、バイオ燃料や風力、太陽光発電など自然エネルギーへの転換
- ※エネルギー効率の良い、技術の開発
- ※公共交通の利用促進・家庭のエネルギー消費の削減

といった事柄が紙面上で飛び交っていますが、勿論これらの事柄も大変重要なことではあります。何か人ごとのような気が致します。

個々人が、もっと責任を持って実行出来ることはないのか思考していると、ある新聞社の時事論壇に「炭素会計」（橋爪大三郎著書）を取り入れてはどうだろうと述べられておりました。全ての財に関して、それを生産するのに必要な排出量を計算し、その値を商品に指標として付け、それらの製品を消費する個人に対して、排出に責任を持たせようとするものです。

日常生活や事業活動（ボランティア活動等での植林等）の中で、炭素相殺（削減しきれない分の二酸化炭素）という形の考え方も、出来るというものです。

何事にも個人が責任を負うことが希薄となっている現在、少なくとも自然環境に関わる事柄には責任を持ちたいものです。人間の都合だけを優先してきた活動は、自然環境に負荷を与え過ぎ、大自然が持つ循環システムを破壊していることを考え、もう一度人類が誕生し、狩猟生活をしていた頃の原点に戻って考えてみては？

私は、利便性を犠牲にした「ゆっくり・ゆったり」リズムの生活様式に改め、早速おなかの脂肪をエネルギー源とした自転車通勤で、メタボ体型解消に向けて努力しているところです。